

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞ カンキツ

＜産地の現状・課題＞

県内のカンキツ産地は、ハウスミカン及び年内収穫が可能な早生温州等を中心とした品種構成となっている。露地カンキツに関しては、高品質果実生産が望まれることから、マルチの敷設や植物調整剤の利用により高品質果実生産に努めている。

農研機構の開発した「シールディングマルチ栽培」は、通常の露地栽培との比較で植物調整剤が2回から0回、雑草抑制による除草作業に関しても30%程度の減化学農薬の削減ができる。肥料に関しても、雨水による流亡が少なくなることから、年間窒素量20%程度の削減が期待できることから減化学肥料にもつながる。通常のマルチ栽培との比較でも、マルチの敷設規模が少なくなることから、省力化を図ることができる。

減化学農薬・減化学肥料栽培、除草作業やかん水管理といった反復作業の負担を大幅に軽減する実証を行いつつ、栽培環境のモニタリングを行い水分ストレスを確認しながら、高品質カンキツの安定生産技術として、グリーンな栽培体系のマニュアルに取りまとめて情報発信し、本県カンキツ産地への普及を目指す。

2 検討体制

＜愛知県組織と関係機関等の役割＞

- ・農業水産局農業経営課(事務局)
- ・農業革新支援センター(事業のコーディネート、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の取りまとめ)
- ・農業総合試験場(試験方法に関する助言、調査・技術指導)
- ・普及指導センター(農業者との調整、実証ほの運営管理、調査・技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の検討、産地への情報提供・普及支援)
- ・農業者(実証ほの栽培管理、技術の検証)
- ・JA(農業者との調整、実証ほの運営援助、調査協力)
- ・JAあいち経済連(情報提供)

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬及び化学肥料の使用量の低減	植物調整剤散布 除草作業 マルチ被覆の作業性 施肥作業	＜取り入れる技術＞ シールディングマルチ栽培の導入
		＜見込まれる効果＞ ・熟期促進のための植物調整剤散布回数の低減(2回→0回) ・除草剤使用量の削減(30%) ・マルチ敷設時間の削減(50%) ・マルチ栽培により根域が隔離され、流亡が少なくなりトータル窒素量が削減される(20%)

4 活動内容(予定)

シールディングマルチ栽培の実証ほを設置し、生育・果実品質・土壌養分・栽培環境を調査することで、本技術の省力化効果及び減化学農薬・減化学肥料効果を検証するとともに、高品質カンキツの安定生産技術を確立する。実証結果を取りまとめた栽培マニュアルを作成し、県内カンキツ産地への普及・定着を推進する。